

愛知県豊田市

公の観光施設の民間提案による再生

【テ - マ】 戦略的なインフラマネジメントを担う自治体の体制の確保 **スモールコンセッションの推進** グリーン社会の実現 / その他（ ）
 【対象施設】 道路 / 橋梁 / 公園 / 上下水道 / 河川 / 港湾 / **遊休施設** **その他（ 公の施設**
 【事業方式】 コンセッション **その他のPFI** **包括的民間委託** **その他（指定管理）**

公の観光施設である香嵐渓施設（三州足助屋敷、足助村、その他の多数の施設と園地で構成）において、十分に活用できていない施設（一部は概ね遊休状態）を効果的に活用して地域活性化を図るための整備手法、運営体制・手法について検討したい。

①解決したい課題

香嵐渓施設がある豊田市足助地域は、平成17年に豊田市と合併した旧足助町であり山間にある地域である。急激な過疎が進む足助地域において、地域資源であり、公の観光施設である香嵐渓施設を効果的に活用して地域活性化を図りたいが、紅葉の11月以外は来場者が少なく、現在は十分に施設を有効に活用できていない。

【豊田市】人口 414,502人（令和7年1月現在） 面積 918.5km²

【足助地区】人口 6,700人（令和7年1月現在） 面積 193.12km²（平成17年に旧足助町が豊田市に編入）

足助地区は、香嵐渓にはモミジの名所として11月には50万人の観光客が訪れ、

また重要伝統的建造物群保存地区に選定された足助の町並みが隣接するなど豊田市を代表する観光地である。

【香嵐渓施設】設置条例：豊田市香嵐渓施設条例 面積：香嵐渓園地1927.67m²、三州足助屋敷等1739.86m² 所在地：豊田市足助町飯盛 管理方法：指定管理制度
 用途：観光、山村のくらし体験 状況：香嵐渓施設内にある施設（三州足助屋敷：昭和55年）や設備（ライトアップ設備：昭和63年）など老朽化が進行

【取組状況等】・香嵐渓100年プロジェクトの一環として、令和4～5年度に香嵐渓樹木整備計画を策定し、紅葉を保全するための計画的なスギ伐採とモミジの植樹を実施中

・同プロジェクトの一環として、令和6年度に香嵐渓活性化計画を策定した。計画内の整備方針を踏まえ、整備手法及び運営体制、運営手法を検討中

紅葉の香嵐渓



②課題解決の方向性等

【前提条件】

- ・香嵐渓施設内の三州足助屋敷で行われている生業事業（公の事業）は、昔の山村の文化を市民に伝える施設であり、本事業は継続する。
- ・観光客でなく市民利用も拡大するために、香嵐渓活性化計画に掲げる次の項目を実現したい。
 - ①11月ピーク型から通年型へ、②「観光」から「観光」+「日常的に訪れたい憩いの場」へ、③クローズからオープンへ、④足助の町並みとの連携
- ・香嵐渓施設が愛知高原国定公園内にあるため、開発行為の規制がある。

【相談内容】

- ・香嵐渓施設は、飯盛山を中心とした広い園地に、文化伝承施設である三州足助屋敷の他、ビジターセンターなどの公的施設、飲食店・喫茶店、物販店、B B Q施設、宿泊施設などの営利施設など、複数の用途の施設がある。園地と複数の建物から構成される公園のようであるが都市公園ではない当該施設において、十分に活用できていない施設（一部は概ね遊休状態）を効果的に活用できる運営体制・手法を提案いただきたい。
- ・合併後、施設修繕等の維持管理は行っているが、エリアの見直しや大規模な開発は行っていない。上記①～④の実現を前提とした民間資金等による整備手法を提案いただきたい。
- ・上記提案の際には、観光マーケティングの視点で、グリーンツーリズムなど観光トレンドを踏まえた施設コンセプトやコンテンツ造成等も合わせてご提案いただきたい。

三州足助屋敷



観光マップ



③課題解決のイメージ・効果

豊田市足助地区は、名古屋駅から車で1時間程度で来訪でき、香嵐渓や重要伝統的建造物群保存地区を有する豊田市を代表する観光地であるが、人口減少・少子高齢化等により将来的に地域コミュニティの存続も危ぶまれる状況にある。

そのため、市が所有する香嵐渓施設を中心に観光振興を強化し、観光客等の来訪を増加させ、地域雇用創出等による地域活性化を図りたい。また、市民や地域にとっても香嵐渓施設が憩いの場となり、足助地域や山村部への定住・移住へと繋がることも期待している。

その他

特になし